



安藤眼科医院

ANDO EYE CLINIC

<http://www.andoganka.com>  
e-mail:info@andoganka.com

安藤眼科医院/〒258-0003 足柄上郡松田町松田惣領995-1  
TEL:0465-83-4545 FAX:0465-82-0981  
安藤眼科医院小田原クリニック/〒250-0862 小田原市成田168  
TEL:0465-38-0344 FAX:0465-38-2800  
安藤眼科医院南足柄クリニック/〒250-0105 南足柄市関本569  
TEL:0465-73-1515 FAX:0465-73-8585

## Annual Report 2016

### 医療法人社団 安藤眼科医院

高度な医療 そして やさしい心配り  
患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けます



#### ◇安藤眼科医院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領 995-1  
Tel 0465-83-4545

#### ◇安藤眼科医院小田原クリニック

〒250-0862 神奈川県小田原市成田 168-5  
Tel 0465-38-0344

#### ◇安藤眼科医院南足柄クリニック

〒250-0105 神奈川県南足柄市関本 569 ヴェルミ 2 1F  
Tel 0465-73-1515

<http://www.andoganka.com>

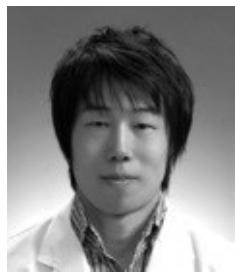
[info@andoganka.com](mailto:info@andoganka.com)

# 目 次

院長挨拶	理事長・院長 安藤 浩	1
安藤眼科医院で人生を謳歌	名 誉 院 長 安藤 展代	2
松田新医院に移転して	副院長・松田管理者 江口 亮	4
新設器械		4
松田本院を移転することになって、検査部の立場から	検 査 部 長 井上 拓己	5
発表		5
安藤眼科医院の新たなスタート～洗練された空間へ～	松 田 責 任 者 関 麻子	6
絶望的から快適空間へ	看 護 師 長 松山さやか	6
松田本院の引越しについて	松田会計マネージャー 加藤 明子	7
【特別寄稿】移転工事	株創建 代表取締役 加藤 健 様	8
三医一体 ～小田原クリニックから松田本院移転を考える～		
コンタクトレンズマネージャー 手術室長補佐 藤本 景子	8	
改装・修理・点検		9
父の闘病と最後の課題	事 務 部 長 加藤 晃仁	10
南足柄クリニック 2016 年	南足柄クリニック管理者 石川 暢子	11
2016 年 My News	医 長 戸野塙敏恵	11
ひとみすつきり号（無料送迎車）の動き		12
2016 年の思い出		13
開院 27 周年記念遠足 ～ in 東京ディズニーリゾート～		
南足柄責任者 飯山百合子	13	
2016 年の納涼会を振り返って	小 田 原 秘 書 小見山絵理子	14
委員としての納涼会	医療連携マネージャー 関野美美	14
医師会・眼科医会		15
2016 年に行われた手術		16
水晶体再建術術中トラブルについて		16
学会・勉強会		17
2016 年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々です。		17
入職者 がんばって下さい		18
退職された方 お疲れ様でした		18
結婚おめでとう		18
お誕生おめでとう		18
スタッフ		18

# 院長挨拶

理事長・院長 安藤 浩



安藤眼科医院のアニュアルレポートをお手に取っていただき、ありがとうございます。今年一年お世話になりました地域の皆様、お世話になっておりますクリニックや大学の先生方や皆様、そして関連する企業の皆様にお礼を申し上げます。またこれからも長きにわたってご指導ご鞭撻いただけますようにお願いいたします。

平成28年の夏に当院の松田本院が同じ町内で200mほど移転いたしました。新しい建物は、もと保育園だった建物を大幅に増改築したもので広さにも余裕があり、いらしていただく地域の人々やそのほかの人々に、より快適な診療行為を提供できるようになっています。どの家、どの企業の引っ越しも大騒ぎで楽しいものだと思います。特に医療機関は社会的インフラとして、場所と人と機械で成り立っていますので、引っ越しは当院にとって一大イベントでした。今回のアニュアルレポートで、安藤眼科医院の引っ越しの大騒ぎ感を皆様にも楽しんでいただけたらと思います。

またこの場をかりましてお世話になりました、そしてこれからもお世話になる業者やメーカーの方々、そのほか多くの方々に厚く御礼を申し上げます。特に、貸主の込山英弥様、込山和子様、山口真澄様、設計にかかわっていただいた久保田康之氏、タカラスペースデザイン㈱板山透様、桐田靖彦様、藤岡寿夫様、施工に携わっていただいた㈱創建加藤健様、加藤和幸様を始めとする皆様に、厚く御礼を申し上げます。

—院長である私から見た引っ越しの話をさせていただきます。—

院長である私、リーダーの仕事は、動機付け、計画立案、実行、振り返りを、チームが一丸となって行えるようにする牽引と取りまとめです。

旧建物において、安藤眼科医院は、地域の皆様に信頼をしていただいたおかげで、とても混雑するようになっていました。人々がすれ違う時には横歩きですり抜けるような、よく言えば活気のある、しかし、負担の大きい診療所になっていました。移転プロジェクトの動機は既に共有されていました。合理的で余裕のある新クリニックの獲得です。職員はすでにプロジェクトに向かっての希望的動機によって強く結束していました。そこにご縁のあった貸主様との出会いがあり、契約をさせていただけたのです。

計画立案と実行はほとんど同時に行われました。設計と施工は昔から当院とのお付き合いのある、信頼のおける業者の方々と行いました。移転決定から移転実行まではかなり短い時間設定がなされていましたので、全員で全速力です。この短い時間設定が全員の意思疎通を活発にし、良い計画と実行の要因になっていたようにも思います。

まずは設計です。外部の人々の意見も聞きつつ、それぞれの部署の責任者が自身の価値観に従ってあらゆる案を出してくれました。動線合理化を追求したもの、検査の効率化を考慮したもの、職員間連絡を考慮したもの、いろいろな案が出てきます。それらはそれぞれの部署からみた世界観を表していて、すべての案がとても面白いものでした。

思い入れに沿い、思い込みを排除するために、私は検証と検討を促しました。まずは、来院者と職員の観察、旧建物内で人の移動数と方向を実数調査、統計学的検証、新しい動きの発案とシミュレーションを行いました。調査や検討は、できるかぎり担当者に行わせました。検討を進めるごとに、それぞれの持つ世界観が変化し、次に出てくる設計図が今までよりもさらに洗練された形に変化するのは、とても頼もしく興味深いものでした。

次々決定される事項と同時に、デザイン設計事務所と施工業者との話し合いを行い、設計図に落としていきます。その間にも内部の事務機器や、職員スペースの運用などを担当者が決めていきます。引っ越しの荷運び実務に関しては、かなり綿密に事務部が計画を策定してくれました。建築中には中

規模地震にびっくりし、東京オリンピックの影響による資材不足を心配し、私のインフルエンザ罹患で皆に迷惑をかけ、いろいろなことがありました。そして前のめりの姿勢で引っ越し日時から逆算した日程表をぎりぎりで追いかけながら、なんとか移転を成功させたのでした。

無事に立ち上がった建物で、現在は診療を行っています。徒歩来院の方に対しては駅から300mの距離を送迎車運行し、自動車でいらっしゃる方々の駐車場は満車ぎりぎりで推移しています。職員と来院者が交錯することは少なくなりました。各種検査を受ける方々は、無理なく院内を1周して検査が終われるようになりました。隠れた動線として前号アニュアルレポートした院長室直結滑り台も、院長専用動線として大活躍です。引っ越し後には来院してくださる方のお一人に「無駄がなくなったから待ち時間が少なくなったみたいだね」とお褒めの言葉もいただきました。

完成度の高い新クリニックを使いながら、安藤眼科医院の各部門の各種遂行能力の高さを、手前味噌ながらとても誇りに思います。また、設計、施工、引っ越し、運用と、一通りを経験することで、それに携わっていただいた業者の方々の業態の一部が垣間見え、それぞれのお仕事の大変さを知るとともに、感謝の気持ちがふつふつとわいてくるのでした。

本当に皆さまありがとうございました。そしてお疲れさまでした。私にとって、とても楽しい引っ越しでした。

さて、将来を考えます。多忙な中で来院される方からお褒めの言葉をいただいた引っ越し直後から、数か月が経過しました。外来診療可能人数が増えることに呼応し、予約枠がいつの間にか増殖し、また予約が満タンになり、待ち時間が徐々に伸びてきています。次のプロジェクトを発進させる必要があります。

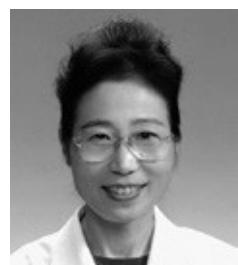
IoT<sup>注1</sup>を使い、部署ごとの滞留人数の増減加速度を表示できたら、それにあわせて院内職員の流れ全体を変化させて、混雑に対応できるのではないかと考えています。どのような方法があるでしょうか。今度もやはり当院の頭を全開にして、さらに外の人々の力を借りしなければいけなさそうです。みなさま、これからも安藤眼科医院をよろしくお願ひいたします。そして、職員の皆様、たぶん近いうちにまた大騒動をするので、楽しみにしていてください。

注1 Internet of Things：様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより、相互に制御する仕組みである。

ooooooooooooooooooooooooooooooo

## 安藤眼科医院で人生を謳歌

名誉院長 安藤 展代



1989年2月3日に50坪のテナントで開業した。一番奥に手術室を置き、手前にシングルベッド2つを入れた回復室、その隣にソファーベッドを入れた自分の部屋（術後患者の容態によっては泊まるかもしれない）、職員の控室もできた。天にも昇る気分の開業だった。診察机は残りスペースの中央に置き、ほとんどカーテンもなく、診察はオープンだった。つまり待っている患者さんも今済んだ患者さんも診察机の周りにいる。治療や手術の説明、点眼液の使い方など、周りの人は他の人の分まで何度もみんな聞くことになり、患者さんの教育的にもとてもやりやすかった。また、受付、会計などの会話も聞こえるから、そこでの説明の仕方などを気になることはすぐに伝えて直してもらったりできた。しかし、患者のプライバシーが重要視される風潮になり、診察室はカーテンをつけるところから瞬く間に壁を作るところまで進んだ。始めは囊外摘出術だった白内障手術が超音波乳化吸引術になり、術後安静の時間が減少し、手術症例数が増えたこともあり、ベッドはいりません！と看護師に言われて回復室は診察室になってしまった。

私の部屋もなくなり（第2診察室になり）、職員の控室も外部に求めることとなった。いろいろな機械が欲しくて買っているうちに、あちこちぎゅう詰め状態になってきた。

数年しないうちに私は広いところがないかと探し始めた。しかし駐車場まで含めた良い話がそう簡単にあるものではない。やっと探し当てたのは松田の診療所をすっかり引っ越すにはかなり遠い小田原クリニックの場所だった。そこで手術関連に特化した施設を作ろうと考えた。手術室を引っ越すだけでも助かるが、松田の患者さんが少しでもそちらに引っ越してくれれば、松田の外来にゆとりができるのではないかと期待した。ところが、効率的な手術室は完成しその点ではよくなつたのだが、松田の患者さんはほとんど引っ越すことなく、松田の外来はぎゅう詰めのままで居続けてしまつた。

松田外来を広くする、あるいは近くに引っ越す計画はその後いくつかの案が出ては消え、私はほとんどあきらめかけていた。そこに立花愛児園の跡を駐車場ごとお借りする話が出てきた。院長がまず、元保育園ならではののんびりした造りを気に入つたらしい。一度見に行ってよと言われて行ってみると、確かに駐車場までを含めて広々とした、暖かい雰囲気はなかなか良い。燕も来るらしい巣の跡もある。駅から300mあるうえ、道路付きはあまりよくない、ということを除けばこれは楽しい計画になるかもしれない、何よりも院長が気に入っている、滑り台もあるし、それを残せたら楽しそうだ。

オーナーの込山様の暖かいご理解、加藤勝弁護士のご指導で話が順調に進んだのは幸いだった。建物が古かったため、どのように補修してどのように眼科医院に仕上げるかがかなり難しい問題として浮上してきたが、当初の建物の設計を担当された久保田康之氏と、株式会社創建の加藤健取締役と加藤和幸氏親子の経験と知恵によって徐々に解決に向かつた。一方、どのようなレイアウトにするかについては職員間で真剣な議論が交わされた。広くなるとは言ってもやはり限界はあるし、本来 one floor 100坪は必要と考えられる眼科医院を2つのフロアに分けなければならない、それには患者さんの動線をいかにうまく整理して考え、今までとは違う動きも含めてフレキシブルに対応するかが重要だった。こうにしかならないという限界まで話を詰めるのに大分時間がかかったが、時には深夜にも及ぶ会合を繰り返し、よく頑張ったと思う。そしてデザインについてはタカラスペースデザインの桐田さんをはじめとする方々からなかなかきれいな案をたくさん出していただき、費用との調整に少し手間取ったものの、楽しみな設計となつた。

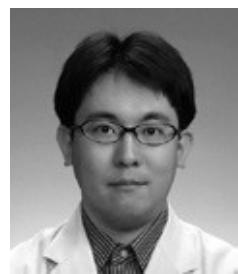
あちこちで手間取って工事日程は大幅に遅れそうで、既に以前のテナントの退去日、引っ越しと新規開業日が決まっているのにどうなるのだろうという心配が続いたが、これも創建さん親子の経験と知恵がものを言い、無事に6月末に引っ越すことができた。

新しい眼科はとても明るくて住みやすい。私の診察室の窓からは駐車場が見え、患者さんの出入りも見えて楽しい。患者さんは広くなって良かった、きれいでうれしいなどと、とてもほめてくださる。駅から少し遠いという心配から送迎車をピストンで回してみたが、あまり乗る人はいないようだ。どうやら杞憂だったらしい。

松田外来が狭いという懸案事項はここに解決した。これまで來るのに前述のとおり多くの方々にお世話になったが、このことを通じて職員が格段に成長したことを私はとても大切に思っている。安藤浩院長、江口副院長、石川先生、戸野塚先生、井上検査部長、加藤事務部長、木村手術室長、松山看護師長、3院の外来責任者（飯山、関、野崎）など、主だった指導者をはじめとして当院には驚くほど優秀なメンバーがそろっていると感じる。そのほとんどが40歳代である。40歳代から50歳代にかけては非常に人生が充実し、仕事に打ち込み、仕事を楽しめる年代だと私は思う。この移転事業は、働き盛り、人生謳歌盛りの職員が力を合わせて頑張った結果だった。そして素晴らしい松田外来が出来上がつた。これからこの運営に知恵を絞るのもその人々である。どうかみんな元気でこの診療所での仕事を心から楽しめるように、この仕事に出会えてよかつたと思えるようになってほしいと願つてゐる。この拙文を読んでくださる皆様、どうぞ彼らを応援してあげてください、よろしくお願ひ申し上げます。

# 松田新医院に移転して

副院長・松田本院管理者 江口 亮



今年の7月4日より新病院での診察を開始した。また、それに伴い南足柄クリニックの管理者から松田本院の施設管理者となった（といっても特に偉くなつたわけでもなく、また日常の業務に全く変わりはない）。

以前の医院や駅から近い、広さがそれなりにある、できれば駐車場を確保したいなどさまざまな条件をクリアし、縁あって現在の場所への移転となった。駅からは若干遠くなったものの広さ、駐車場などにかなり余裕があり、本当によいところへ移転できたと思う。自動ドアを入ると正面にホテル顔負けの受付カウンターが、また待合室には院長こだわりのカラフルでおしゃれな椅子（御来院の際にはぜひ注目を！）が並んでおり、非常に清潔感がある病院となった。御来院いただいた患者さんからもお褒めの言葉をいただくことが多く嬉しい限りである。入口前のロータリーにはそのうちきれいな桜が咲く予定でそうなるとより一層“絵になる”医院になりそうである。我々のワーキングスペースである診察室も以前のものに比べかなり広くなり非常に快適に診療を行うことができている。また、2階も含めた延べ床面積が増えたことでまだ検査室には余裕のスペースがあり、今後しばらくは院長・名誉院長の器械購買意欲の増進に対応できそうである（・・・ただ、空きスペースは全部埋まるまでものが増え続けるというのが世の常であるし、院長・名誉院長の器械購買意欲が底なしであるのもまた周知の事実である）。

現在、安藤眼科医院は白内障手術はもちろん、緑内障手術、硝子体手術、眼瞼手術なども多数施行しており、ありがたいことに近隣の眼科医院さんからたくさんの御紹介をいただいている。眼科分野においてはまさに地域の中核病院の立場にあり、またそれゆえの責任がある。現時点でもかなり豊富な眼科器械で高度な診療を行うことができていると思うが、眼科分野の発展は著しく、次々と新しい検査器械が発表されるという時勢に鑑みてスペースに余裕があるのは非常にありがたいことである。

安藤眼科医院の理念として“高度な医療 そして やさしい心配り ー患者様の明るい世界、輝く笑顔が見たいから成長し続けますー”を掲げている。患者数が多くまさに基幹病院である松田本院、手術に力を入れている小田原クリニック、外来特化型の南足柄クリニックと個性のある3院が今までどおり協力して地域の眼科医療に貢献していきたい。待ち時間はじめとして改善すべき点はまだまだあると思うが、少しでも理想像に近づけるように、私個人としても安藤眼科医院の一員として医院の発展に全力を尽くしたいと考えている。

oooooooooooooooooooooooooooo

## 新設器械

2月27日	日本アルコン㈱社製 VERION	小田原クリニック設置
6月25日	中央産業貿易㈱ H/S スリットランプ BQ900 LED	松田本院設置
6月25日	スペースデセービングチャート SSC-370 TypeD	松田本院設置
6月25日	㈱タカギ処置台 フルリクライニングチェア	松田本院設置
6月25日	㈱ニデック NAVIS-CL ラックマウントサーバー	松田本院設置
6月25日	㈱ニデック NAVIS-CL 参照用スマート端末 9台	松田本院設置
6月25日	㈱ニデック NAVIS-CL 検査用端末 4台	松田本院設置



## 安藤眼科医院の新たなスタート ～洗練された空間へ～

松田責任者 関 麻子



平成 27 年 8 月、初めて安藤眼科松田本院が移転するという話を聞いてから、平成 28 年 7 月 4 日の移転まであつという間に時が過ぎたような気がします。入職した当時、旧診療所の診察室前の通路幅が狭く、よく他の職員や患者様とすれ違い様にぶつかりそうになり、ヒヤッとした経験がありました。移転して広々とした院内で仕事ができるようになると想像したらとてもワクワクしました。

各部門合同の移転打ち合わせに出席した際、初めて新診療所の設計図を目にしたのですが、イメージが全く沸かず、パズルを組み合わせるように必死に頭を働かせていたことが思い出されます。

今年の 4 月から移転に向け本格的な準備が始まりました。事務、検査、看護師、各部門と協力して動線を検討し、電気のスイッチ位置、机の配置など細かい部分も決めていくのと並行し、廃棄する物、移転先へ移動する物品の振り分けを引越し隊長を中心に全員で取組みました。物品整理をしていると、開院当時の名誉院長の写真が掲載された掲示物（これが若い！）、手書き書類の原本等を見つける度改めて安藤眼科医院 28 年の歴史を感じました。

建物完成後見学許可が下りて初めて建物内に入った時は、設計図で見ていた受付や事務スペースが実際に目の前に存在している事にとても感動しました。院内は洗練された木目調で、なんだか自分自身も一緒にレベルアップさせてもらったような錯覚に陥りました。

6 月 27 日から 1 週間、診療を休診させていただき引越し始まりました。物品をダンボールに梱包したり、旧診療所の片付けと並行しながら、業者さんにもご協力いただきながら職員全員と新診療所への運搬が始まりました。途中、引越し業者さんの手が空いてしまうほど、眼科職員の各持場でのチームプレーがあまりにも素晴らしい印象でした。

新規開業直前の 2 日間、各先生方にもご協力頂き、実際の受付から会計までのシミュレーションを行い、患者様に御迷惑をお掛けしないように準備を整えました。

全部門で試行錯誤しながら、ようやく迎えた 7 月 4 日、当日は株創建様を始め、各業者様立ち合いのもと大きなトラブルもなく無事に診察を終了する事ができました。今回、沢山の方々に支えられ安藤眼科医院が無事移転できました事を、この場をお借りして心より御礼申し上げます。今後も職員一同協力して、患者様がより一層安心して通院できる環境を目指して業務に取り組んでいきたいと思います。

oooooooooooooooooooooooooooo

## 絶望的から快適空間へ

看護師長 松山 さやか



松田の移転が決まり漠然と新医院で仕事できることが楽しみでしたが、しかし図面を見た時、看護師の場所が処置室、相談室、2 階の 3 箇所に分散されることに不安を感じ、また処置室の狭さに驚きました。引っ越しが近くなると、どのスペースで何をするか、どんなものが必要か、足りない机や棚などの購入など決めることが多く、図面と毎日にらめっこし、慣れないメジャーとスケールを使い配置を決めたのですが、特に処置室はとても悩みました。部屋は狭いのに旧医院で使用していたものよりも大きい顕微鏡と処置ベッドを入れることになったからです。これらを入れたら処置室の大半を占領され今まで使っていたものが入らない

…展代先生は処置室では処置のみと考えているようだが私達としては看護業務をここでしたい…どうにかならないかと私達で縮図を作りパズルのように毎日悩みました。

引っ越し当日、相談室と2階は周りの雰囲気に合うまではのものができました。ところが処置室にまず顕微鏡を運ぶことになったのですが、入口が思ったより狭くすぐには入りませんでした。「まさか入らないかも！」と期待しましたが（先生ごめんなさい）業者の方々がなんとか入れてくれました。想像以上の圧迫感であるで怪獣がいるかのように見えました。次々ベッド、机等運ばれあまりの狭さにここでは仕事できないとさえ感じました。展代先生からは「絶望的…」の一言をもらい心が折れました。その後、皆に助けてもらい今の形となり先生から「一時はどうなるかと思ったけどよくなつた！」とOKをもらえた時は安堵しました。

引っ越しして数か月経ちますが初めは圧迫感しかなかった処置室も今となってはこじんまり落ち着いた空間となっており、分散された3箇所でも心配していた看護師間の意思疎通も取れており、患者様から見たら落ち着いた中で話しやすいスペースになっているのではないかと思います。新医院で気持ち良く仕事ができることに感謝し今後も頑張りたいと思います。

ooooooooooooooooooooooooooooooo

## 松田の引越しについて

松田会計マネージャー 加藤 明子



安藤眼科医院松田本院は2016年7月4日現在の新天地に引越しとなりました。いざ引越しとなると旧本院が名残惜しかったりもしましたが、引っ越ししてみるとその居心地のよさに旧本院への郷愁もどこへやら、もう、あの頃へは戻れません。

引越し以後、私がひそかに楽しく思っている事の一部をお話させていただきます。

何より受付がかっこいいこと。職員が席について業務をこなしている景色は壮観です。外番さんも素敵です。患者様の案内、問い合わせ等々、受付の外に出て患者様と対応します。外番さんが患者様と対応しているのを見るのが大好きです。

お掃除隊も新設され、掃除機ロボットのルーロくんが働いている姿はなかなか癒されます。

診察室も広く快適で、患者様をお迎えする気持ちに余裕が生まれます。窓からの景色も日々変化し、日の長さで季節の移り変わりを感じています。駐車場を猫が横切ったり、風で木々が大きく揺れたり…そんな景色が嬉しいです。

レーザー室が2階になり、レーザーの度に先生と階段を駆け上がるのも楽しいです。

朝、院長が院長室から診察室へ付属の滑り台を使って降ります。まさか本当に滑り台使うとは…！！今はもうなれましたが、“大人が滑り台やってる・”と、近隣で変な噂が立たないかどうか心配です。

引越し前、業務上の様々な懸念がありましたが、いざ始まってみると職員の持ち前の順応力、気合、体力でひとつひとつ解決し、患者様に優しいクリニックにどんどん近づいていますように思います。

こんなにきれいで気持ちのいい職場に勤務させて頂けて本当に幸せです。

院長、名誉院長はじめ各先生方、各業者の方々、事務部長、松田責任者はじめ各担当の職員の方々、そして職員一同のご尽力に、心より感謝申し上げます。

## 特別寄稿：移転工事

株創建 加藤 健



2016年7月4日に安藤眼科医院松田本院が移転し無事に開業いたしました。新たな松田本院は保育園から眼科診療所へのリノベーションとなるので、設計では患者様の動線とスタッフの動線の取り方、検査や治療などに使う医療機器の配置など、既存建物を活用しながらどの様に設計していくのかが問題となりました。また工事を施工するに当たり、確認申請などの諸官庁への手続き、残す部分と壊す部分の切り分け、既存建物部分と増築部分との接続方法、既存建物内にどの様に設備機器を設置するか等々の問題もありました。

デザイン設計決定後、工事着工前に申請用設計図を作成して諸官庁への手続きを進めていきますが、移転先は敷地が広く駐車台数を確保できるのですが、広いが為に“開発行為”に該当するか否かの判断をする為の事前相談書の提出が必要で、その後に“バリアフリー街づくり条例”による事前協議を経てから建築確認申請の提出となり、諸官庁の手続きに多くの時間が必要でした。

建物を建てる（工事をする）時は設計図を基に実際に施工するための施工図（基礎などの躯体図、内装用の詳細図や展開図など）をミリ単位で検討、調整して作図を行います。同時にエレベーター、アルミサッシ、ドア等の建具、鉄骨など製作に時間のかかる物の図面チェックから製作開始決定を行っていくのですが、スケジュールがタイト過ぎて1日36時間位あればと思いながら図面と格闘していました。また、今回の工事において既存建物部分の構造体は壊さないようにする部分が多く、設備配管、配線をどこにどの様に通すかが問題となりました。なかでも現在の基準を満たすための換気用給排気配管は太い為に、既存のダクト用開口を使うなど経路が限られておりかなり苦労した部分です。

かつて保育園だった名残である滑り台は、想定より基礎が大きくて増築部分の基礎と干渉してしまう為に一旦撤去して（踊り場と柱部分が約400kg、滑る部分が約700kgでした）新たに基礎を作り直して再設置していますので当初の位置より40cm程ずれています。

限られた工期の中、院長はじめ眼科様スタッフ、デザイン設計、意匠設計、実際に工事を施工して頂いた職人さん達、皆様のご協力があって無事に竣工を迎えることができました。ありがとうございました。

oo

## 三医一体 ～小田原クリニックから松田本院移転を考える～

コンタクトレンズマネージャー・手術室長補佐 藤本 景子



安藤眼科医院小田原クリニックに勤務する私が、移転工事後初めて足を踏み入れた松田本院は、駐車場も広く、落ち着いた雰囲気の中にも色とりどりの椅子や滑り台といった遊び心のある、とても素敵な医院という印象でした。医療従事者としての視点でみると、待合室の椅子の配置、看護師の問診スペース、廊下と検査室を区切る半透明のパーテーションなど、患者様のプライバシーに対する配慮が格段に向上し、元々保育園だった建物を改築したとは想像もつかないほど、スタッフの動線や患者様の在院時の心地良さが考慮されたレイアウトになっており、この移転工事に携わった全ての方々が多事多端であったことが、手に取るように想像がつきました。

現在、安藤眼科医院は松田本院、小田原クリニック、南足柄クリニックの3つの診療所から構成され、松田本院と南足柄クリニックは外来中心で、特に今回移転した松田本院は、3つの診療所の中で最も

多くの外来患者様が来院される診療所です。一方私が勤務する小田原クリニックは、年間 2000 例の白内障手術を初め、緑内障手術、硝子体手術、近視矯正手術、外眼手術も行う手術に特化した診療所です。

小田原クリニックで行っている手術症例は安藤眼科医院 3 院の患者様で構成され、外来件数の多い松田本院に通院されている患者様が多いかと思われ、今回の移転を機に松田本院の外来患者様への門戸がより広くなると共に、小田原クリニックの手術件数が増加することを期待してやみません。

松田本院、小田原クリニック、南足柄クリニック、『三医一体』となって安藤眼科医院全体の発展と神奈川県西部の地域医療への貢献に繋がることを願っております。

oo

## 改装・修理・点検

1月 12日～13日	小田原クリニック Visx Wavescan 定期点検 AMO 岡田様
1月 16日	松田・小田原クリニック 内線化工事 (株)大塚商会 小川様 (有)三晃電設 鈴木様
1月 30日～31日	小田原クリニック 防犯カメラ設置工事 (株)創建 加藤 健様 (株)セコム様
2月 18日	南足柄クリニック消防設備法令点検 (株)相日防災様
2月 26日	小田原クリニック貯水槽法令点検 トータルライフサービス 井上様
3月 5日	小田原クリニック 3階レーザー室 エアコン入れ替え (株)創建 加藤様
3月 16日	(有)湘南メディカルサービス 立ち入り検査 足柄上保健福祉事務所 生活衛生課 三沢様
4月 2日	小田原クリニック浄化槽プロワー交換工事 トータルライフサービス 小澤様
5月 15日	小田原クリニック セコム機器入れ替え工事
6月 10日	(有)湘南メディカルサービス 移転立ち入り検査 小田原保健福祉事務所足柄上センター 落合様
6月 18日	松田新サーバー搬入 (株)ニデック大槻様
6月 20日	小田原クリニック消防設備点検 相日防災 桐山様 NAVIS 証明書交換作業 三菱インフォメーションネットワーク(株)社様
7月 16日	小田原クリニック ガス管交換作業 相原興業(株)社様
7月 24日	松田サーバー室 結露対策工事 (株)創建 加藤健様 太平電気工事(株) 田村様 (株)ニデック 大槻様
7月 30日	松田エレベーター定期点検 (株)日立ビルシステム社様
8月 1日	小田原クリニック 防犯カメラハードディスク交換 (株)ドットウェルビーエムエス社様
8月 13日	小田原クリニック・南足柄クリニックサーバーメンテナンス (株)ニデック社様
8月 24日	小田原クリニック 2階モニターテスト (株)創健 加藤健様 太平電気工事(株) 田村様
8月 29日	WAVE スキャン VISX 定期点検 AMO ジャパン(株) 岡田様
9月 1日	小田原クリニック 光回線廃止 サーバー室 ONU 撤去 NTT 東日本(株)社様
9月 12日	南足柄クリニック 電気メーター交換 (株)関電工社様
9月 15日	南足柄クリニック ATOK インストール (株)ニデック 大槻様
9月 15日	小田原クリニック ナースステーションモニター工事 (株)創健 加藤健様 太平電気工事(株) 田村様
9月 26日	南足柄クリニック 内線化工事 (株)大塚商会 小川様 (有)三晃電設 鈴木様
10月 9日	小田原クリニック 外壁洗浄 (有)友和エンジニアリング 宮屋敷様
11月 1日	松田女子控室 基礎コンクリート補修工事 湘南ミサワホームイング(株)小國様

# 父の闘病と最後の課題

事務部長 加藤 晃仁



「お前にはいろいろと世話になったが、俺はもう駄目かもしない」  
運転する自分に、突然父が話かけた。

安藤眼科医院松田本院の移転は、父加藤侑彦の膵臓癌の闘病と時を同じくした。平成27年4月本格的な移転交渉を進める中、父は膵臓癌疑いで東海大学医学部付属病院に通院し始めた。7月の正式契約時、胆管閉塞による腹痛と高熱で緊急入院。8月に院内レイアウトを練っていた時“亜全胃温存膵頭十二指腸切除門脈合併切除術”施術。9月の増築か否かを検討していた時ようやく退院。12月に外観デザインが決まった時、肝臓と背骨への転移を確認。1月に院内デザインを決めた時、抗癌剤治療を開始。そして既存建物のスケルトン工事が始まる頃、隔週の抗癌剤治療で銀髪の父の髪はすっかり抜け落ちていた。

平成28年6月14日の診察後、胸椎7番を圧迫骨折し、歩けなくなってしまった父を車椅子に乗せ、病院玄関前にあるスターバックスへ向かう。父は、ここのメープルクリームドーナツがお気に入りで、食事はろくに食べないので、これだけは食べて貰るのが唯一の救いであった。

学業で箸にも棒にもかからない自分は、出来のいい兄といつも比べられて育った。父の期待が兄に向いていたことをいいことに、小さい頃から父とは距離を置いていた。そんな状況での父の発症。胆管閉塞による腹痛と高熱で苦しむ父を、真夜中に東海大学病院に連れて行きため車を飛ばし、通院の度に2人でスターバックスのコーヒーを飲む内に、お互いに対する思いが少しずつ変わっていくのを感じていた。

冒頭の父の言葉を聞き、自分は父を乗せたまま、新しい松田本院の工事現場へ車を向けた。

土、日、祝日もなく工事が続く現場。広い駐車場と美しい外壁の建物に父は目を見張っていた。転職して17年、いつも移転先を探し、周辺の地主さんを訪問し続け、ようやく実現する松田本院の移転。入職して間もない自分が、理事長時代の安藤展代名誉院長から命じられた3つの課題『西暦2000年問題のクリア』、『エキシマレーザーによる屈折矯正手術の導入』、『松田本院の移転』。この最後の課題が、ようやく完成する。自分の感慨深い思いが通じたのか、父も駐車場から静かに建物を見つめていた。

翌6月15日、年金支給日に近くの信用金庫に母と出掛けた父は、そこで意識を失い東海大学病院へ救急車で緊急搬送。意識が戻らないまま6月24日静かにこの世を去った。めったなことで「ありがとう」と言わない父は、自分の死期を悟ってあんなことを言ったのだろうか。手帳の最後の頁には、お世話になった方々の連絡先、香典返しの種類、葬儀社、会場の希望まで、事細かに記されていた。まるでこの日が来ることをわかつっていたかのように。

平成28年7月4日、松田本院は静かに移転開業した。

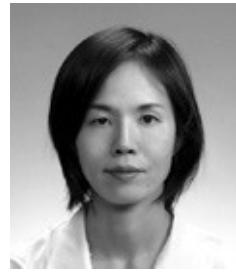
完成した診療所を父は見ることができなかつたが、完成間近の診療所を見せることはできた。昔から父の期待には応えられなかつたが、周囲のみなさまのお蔭で、社会人として自分がしっかりと働いていることを父は理解してくれたと信じたい。

私的事情により、多くの関係する皆様、取引先メーカー様、スタッフに御迷惑をお掛けしました事を、この場をお借りして深くお詫びし、そして心からお礼申し上げます。

最後に、この移転責任者として全てを任せて下さった安藤浩理事長、安藤展代名誉院長に感謝すると共に、最期まで一緒に闘病し、移転を応援してくれた父加藤有彦をここに偲びます。

## 南足柄クリニック 2016 年

南足柄クリニック管理者 石川暢子



松田本院新築移転に伴い今年から南足柄クリニックの施設管理者を拝命しました。これにあたっての煩雜な書類上の手続きを事務部長がすべて引き受けてくださったおかげで私は普段通りに日常業務を行つて過ごすことができました。事務部長には大変感謝しています。ありがとうございます。施設管理者といつても私の仕事は開院から現在までほとんど変わったところはありませんので南足柄クリニックについて語るのはこれまで管理者だった江口先生の方がふさわしいのかもしれません、江口先生は他のことを書いてくださいと言わされたとのことなので、松田本院、小田原クリニックとは少し変わった立ち位置である南足柄クリニックにまつわるエピソードを私が書かせていただきます。

開院当初、地元の方には存在を知られていなかったようでしたが、しばらくすると開院前や閉院後に入り口前に中の様子をうかがう人が立つようになりました。その頃から直接来院される新規患者が増え（安藤眼科医院は予約診療制です）、受付業務にあたる職員が大忙しになりました。最近は予約診療制であることの周知が進んだのか直接来院数は少し落ち着いたようですが、電話の問い合わせが多いのは変わっていません。受診される方のご自宅の多くは南足柄市で、特に高齢の方からは近くに眼科が出来て良かったと喜んでいただけています。院内では診察室から外に出ると検査コーナーも受付もすぐそばにあります。職員同士の距離が近い分だけ互いに気軽に声をかけやすい雰囲気があり、患者様との距離も近く感じます。患者様から思いがけない打ち明け話などを伺ったりすることもありいつつい診療時間が長引いてしまうので、電子カルテの入力作業などの事務処理をなるべく早く終わらせるよう努力しているところです。

当院は大雄山駅前の商業ビルの 1F にあり、2F にはスーパーマーケットが入っています。開院前から最近まで営業していたスーパーマーケットは毎週火曜日が特売日だったためか火曜日の外来では施設の駐車場に車を止めて買い物がてら受診する方、診察待ちの間に買い物を済ませて買い物袋を提げて診察室に入ってくる方が結構いました。受診パターンはショッピングモール内で開業している眼科クリニックと似ていて、受診が唯一の目的になっている松田、小田原とは異なる点だと思います。今年はスーパーマーケットが別のお店に変わることになって改装工事が入る間駐車場が使えなくなり、自家用車を利用して受診する患者様にはご迷惑をおかけしました。新装開店以来買い物帰りの方が減っているようですが、将来当院のように周知された頃には再びお店にひかれて当院を受診する患者様が増えてくるのかなと考えています。もちろん当院を第一の目的に受診される方が増え、受け入れ態勢も一層充実することを期待し努力いたしますので、今後も皆さまご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

oo

## 2016 年 My News

医長 戸野塚 敏恵



新顔登場！ 1月、ハムスターとのお別れが 3回続き長女落胆。娘の犬を飼いたいとの願望は受け入れられず、代わりにネザーランドドワーフが我が家に。命名: モカ。動物病院で「ちょっと肉付きがいいですね。餌を考えましょう。（要は太っていた！）」の指摘を受けモカダイエット開始。あつという間にスリムになってしまった。最近では、ケージから出る遊びを覚え、時間になるとケージをかじり「出せ！」アピール。毎日「モカちゃ

ん、かわいー」連発の長女は学校のストレスをモカに癒してもらっている様子。そんな長女に主人の目じりは下がりっぱなし。

相棒交代！次女誕生とともに購入したエルグランド。10歳の次女はピチピチだが、車は走行距離16万キロを越え、開かずの窓や無音のCD、ウインクするヘッドライトなどボロ多数。子供の反対押し切りエルグランド引退へ。念願の小型セダン車は子供の認可が下りなかつたので再びミニバン。最近の車は装置がいっぱい、未だに不明のボタンが…

井戸端会議!! 皆さんもご存知の安藤眼科移転に伴い、“医局”なるものができた。旧医院では診察室端のカーテン陰でコソコソ白衣へ着替えていたのが、医局で堂々と（？）着替えが可能に。さらに、“医局”最大の利点は、ちょっととした時間に先生方と雑談する機会が持てるようになったこと。仕事だけでなく家庭の愚痴を聞いていただくとても良い場となっている。冷蔵庫も設置されているのでいずれはお茶会も可能…?

注射開始！硝子体注射は、主に小田原クリニックで行われていたが、小田原へ移動困難な方を中心に、今年9月から週1回、松田で担当することになった。1日5眼前後の注射だが、黄斑部疾患への需要が拡大している治療法なだけに、感染症に留意しながら携わっていきたいと思っている。

以上、平穏ながらも新たなことに挑戦することができた1年となった。年がら年中、捻挫・骨折・突指・打撲など、ケガと生傷の絶えない末っ子への心配は尽きないが、これからも安藤眼科の一員として、母として、日々精進していきたいと思っている。



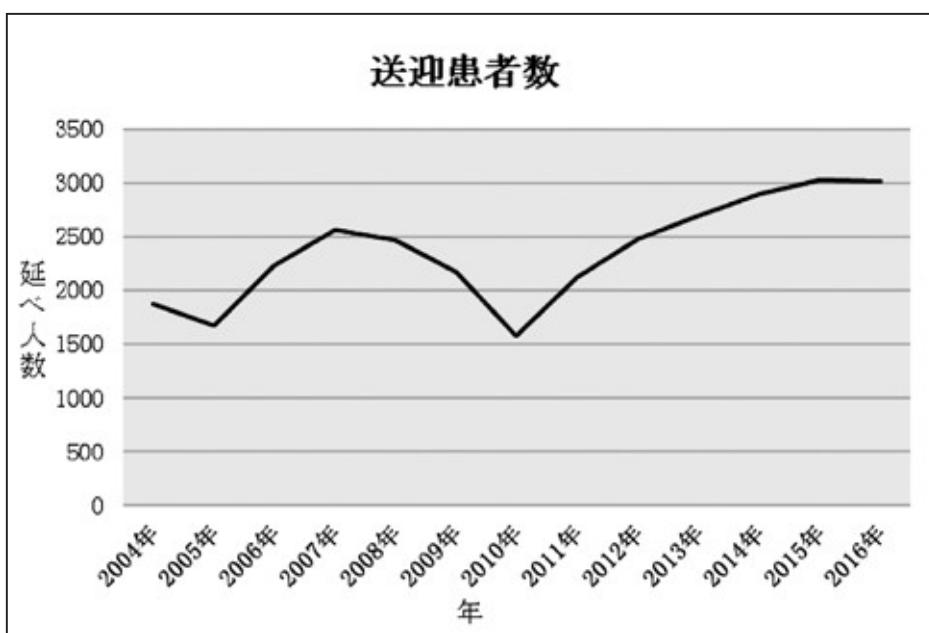
## ひとみすっきり号（無料送迎車）の動き

2016年の利用者は延べ3017人、月平均251人でした。

現在すっきり号は4台、ドライバー5名で運行しています。

### 主な送迎場所

- ・安藤眼科医院（松田）～安藤眼科医院小田原クリニック
- ・足柄上郡松田町寄地区、山北町中川地区・清水地区に定期便を運行
- ・足柄上郡全域と小田原市については手術日と翌日診察についてdoor to doorの運行
- ・新松田駅と安藤眼科医院（松田）



# 2016年の思い出

- 3月1日 Annual Report2015 発行  
3月12日 開院27周年記念 東京ディズニーランド遠足  
職員50人 家族23人 参加  
4月7日 愛toeye 第3号発行  
6月26日、27日 松田本院引越し  
7月4日 松田本院 移転開業  
8月5日 納涼会 新松田『チェルト ホノボーノ』にて  
8月12日 愛toeye 第4号発行  
9月2日 関東信越厚生局神奈川事務所 小田原クリニック個別指導  
神奈川県総合医療会館 安藤 浩 加藤晃仁  
9月28日 南足柄ヴェルミII 新装オープン  
10月～11月 職員健康診断  
11月25日 防災訓練  
12月17日 忘年会『湯本富士屋ホテル レインボープラザ2階 箱根』  
Annual Report2016 発行

## 開院27周年記念遠足 ～in 東京ディズニーリゾート～

遠足委員長 南足柄責任者 飯山 百合子



平成27年11月、「来年の遠足はディズニーリゾートを満喫したい！それも泊りで」

院長、なんて太っ腹！

ディズニーが大好きな私は、嬉しくてガツツポーズをしていました。そんな嬉しさも束の間、私は遠足の委員長を命じられてしまいました。今回は泊りということもあり、名誉院長より指名された幹事5名で企画から準備、運営を進めることになりました。楽しい旅行にしていきたいという一心で、幹事5人で毎週打ち合わせをし、旅行会社さんと連絡を取りながら、企画を練っていました。先生、スタッフ、家族、総勢74名。チケットの手配、ホテルの部屋割り、バスの割り振り、夕食会の企画など、各自の希望を聞きながら予算内で納まるよう、間違いないようにみんなで何度も何度も確認して、ようやく当日を迎えました。

平成28年3月12日（土）遠足当日。午前外来診療終了後、若干のトラブルもありましたが、なんとかバス2台に乗車し出発。バスの中では準備しておいた進行表を片手に、バスガイドさん顔負けのアナウンスをする後輩を頼もしく思いながら、あつという間に千葉県舞浜『ヒルトン東京ベイ』へ到着。3月も半ばだというのにこの日は特別寒く、凍つく寒さの中、ホテルをバックに記念撮影。みんなの笑顔で寒さも吹き飛びました。バスに乗車してランドとシーへ移動。着いたのは夕方でしたが、春休みということで大混雑。入園するや否や、みな蜘蛛の子を散らすようにあつという間にいなくなってしまい、隣にいた名誉院長も一瞬にして消えてしまいました。次に名誉院長を見かけると、デールの被り物をすっぽり被り、御主人様と一緒に楽しそうにしている光景が微笑ましかったです。パークの中では、先生方やスタッフとLINEで連絡を取り合い、『隠れミッキー探し』や、『名誉院長を探せ！』の画像が次々とアップされ、とても盛り上がりました。この日は閉園まで楽しんだ後、幹事5人は1日目の反省と明日の確認をし、夜も更けるころようやく眠りにつきました。

翌朝は早くからホテルの朝食に並び、パークへ向かいました。夜明け前にホテルからパークまで歩

いて移動し、開門3時間前から待っていたという強者も現れる始末（苦笑）。夕方までパークを満喫し、バスに乗車して一路夕食会の横浜中華街へ。さすがに皆さんお疲れモードで、周りは眠っている人ばかり。ついつい私も寝てしまい、連絡を待っていたもう1台のバスの幹事から、『連絡が来ると思ってずっと起きて待ってたのに～！』とお叱りを受けてしまう始末。本当にごめんなさい。

お腹も空いてきたころ、バスは横浜中華街へ到着。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、2日間のエピソードや楽しかった話に花が咲き、『隠れミッキー探し』と『名譽院長を探せ！』の表彰で盛り上がったりと、楽しいひと時を過ごしました。

沢山の準備と不安を抱えて迎えた今回の遠足でしたが、皆さんの笑顔に助けられ無事に終わらせることができ、本当に良い思い出となりました。またこの遠足を提案してくださった院長、名譽院長、本当にありがとうございました。そして一緒に協力し、頑張ってくれた4名の幹事さんに感謝致します。院長、来年はユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどいかがですか？

## 2016年の納涼会を振り返って

小田原秘書 小見山 絵理子



2016年の安藤眼科医院の納涼会は、松田町にある『チェルト・ホノボーノ』で行いました。このお店は、ピザが自慢で、お洒落だけどアットホームな感じのお店です。今回は女子好みのイタリア料理コースで、前菜、ハムの盛合せ、パスタにピザ、デザートとボリューム満点でとてもおいしく頂きました。納涼会と言えば、やっぱりお酒。飲み放題のメニューも、ビールにワイン、カクテル、ソフトドリンクと充実していて、飽きることなく楽しめました。当院のスタッフは幅広い年齢層であるため、「スタッフ全員に満足頂ける」をテーマに、今回お店選びを行いました。

納涼会は忘年会と違い、先生もスタッフも、ラフなスタイルでの参加。お酒の力を借りて、普段は聞けないプライベートな話題で大いに盛り上りました。また、普段接する機会の少ない松田本院、小田原クリニック、南足柄クリニックのスタッフが入り交じり、垣根を越えた親睦を深めながら、笑い声の絶えない雰囲気で、楽しい時間を過ごすことができました。

私は、納涼会で司会にも挑戦。人見知り？の私は、大勢の前で話すのが苦手なのですが、なんとかこなすことができました。日常生活で、多くの方の前で話す機会は少ないので、とても良い経験となりました。

最後に、2015年、2016年と忘年会委員をやらせて頂き、今年は主幹事として活動しました。幹事の仕事は、納涼会の日程決め、お店選び、そして、参加者の出欠取りまとめと、思った以上に大変でした。何よりもお店選びにはとても苦労したのですが、今回の納涼会では参加率が悪くなってしまい、とても残念でした。年末には大仕事の忘年会がありますので、来賓の方はもちろん、先生やスタッフが楽しく居心地の良い時間を過ごせるよう精一杯頑張りたいと思います。

皆様方の多数の御出席をお待ちしております。

## 委員としての納涼会

医療連携マネージャー 関野 茉美



今年も毎年恒例の納涼会が2016年8月5日に開催されました。納涼会はコツコツと準備をする忘年会とは異なり、毎年院長の突然の決定により開催されます。

その会を取り仕切るのは毎年くじ引きによって選出される忘年会委員です。忘年会委員は前任からの引き継ぎ期間としてのアシスタントの前期と本番の後期で2年間に渡り勤めることがお約束。各年2名が選出となり、前期・後期の4名で取り仕切れます。私は今年が本番でした。委員の初めの仕事は2月のバレンタインデー。3月には今年は特に大掛かりな1泊2日のディズニー遠足プロジェクトもあり、その実行委員の一員ともなりました。更に今年のBIGイベントでもあった松田本院の新店移転の引っ越しが6月末より始まり、7月4日に新店での診療がスタートして束の間、ついに院長からの“納涼会を開催しましょう”のお声かかり、急ピッチで参加人数の確認、店舗の確保、メニューの決定をしました。開催店舗は松田では数少ない本格窯焼きピザが頂けるCERTO Hono-Bono チェルト ホノボーノさん。旧安藤眼科医院松田本院の道向かいに位置し、都内から高級車で訪れる方も多い、とても人気の高いお店の1階を贅沢に貸し切らせて頂きました。

予定時刻を少し過ぎたところで副院長Dr.江口による乾杯の挨拶。前菜5種盛りから始まりピザ、肉料理、パスタ、デザートと見た目の華やかさ美味しさとボリュームも満足の内容。辺りを見回せば皆さん話が盛り上がり、オーダーと配膳が追いつかないほどお酒が進んでいました。宴も竹縄となり、院長Dr.安藤浩による締めの挨拶にてお開きとなりました。

毎年、夏休み時期であることと、金曜夜に開催されるため、松田本院・小田原クリニックの手術や診療を終了してからの集合となり、全員参加は厳しい中、今年は6割弱の職員の方々にご参加頂けました。ありがとうございました。担当して思うことは仕事にも遊びにも手を抜かずメリハリをしっかりと持っているところが安藤眼科医院職員の魅力の一つではないかと思いました。来年は参加する側として楽しめます！

oo

## 医師会・眼科医会

1月 8日	足柄上医師会新年会 松田町『千代田屋』 安藤 浩 安藤展代
3月 11日	足柄上医師会懇親会 小田原『澤亭』 安藤展代
3月 25日	関東信越厚生局集團指導 加藤晃仁
3月 26日	神奈川県眼科医会 中央健保懇話会 神奈川県総合医療会館 加藤 晃仁
4月～6月	学校検診：安藤 浩 神奈川県立大井高等学校、松田幼稚園、松田小学校、 松田中学校、寄幼稚園、寄小学校、寄中学校 江口 亮 神奈川県立吉田島総合高校、井ノ口小学校 中村小学校、神奈川県立山北高校、中井中学校 石川暢子 湘光中学校、上大井小学校、大井小学校、大井幼稚園 大井第2幼稚園、相和幼稚園、相和小学校
5月 29日	小田原市休日救患診療所 江口先生
7月 21日	足柄上病院懇談会 松田千代田屋 江口 亮
9月 14日	社会保険診療懇話会 南足柄市文化会館 加藤晃仁
9月 23日	足柄上医師会福利厚生委員会 安藤展代
10月 1日	神奈川県眼科医会健保懇話会 レンブラントホテル厚木 加藤晃仁
11月 8日	松田町就学時健診 松田町健康福祉センター 安藤 浩
11月 10日	大井町就学時健診 大井町健康福祉会館 石川暢子

2016年に行われた手術は2570件（眼数 予定含む）でした。

#### 内眼手術

水晶体再建術	2174	
先進医療マルチ（内数）		137 (6.3%)
自由診療マルチ（内数）		42 (1.9%)
緑内障手術	100	
硝子体手術	41	
合計 (a)	2315	

#### 外眼手術

翼状片	50
眼瞼手術	97
霰粒腫	18
PTK	3
その他	20
合計 (b)	188

#### 屈折矯正手術

ICL	0
LASIK	14
SMILE	47
PRK	2
エンハンス	4
合計 (c)	67

手術合計 (a+b+c)	2570
--------------	------

#### 硝子体注射

マクジエン	0
ルセンティス	291
アイリーア	161
アバスチン	0
合計	452

ケナコルト後部 テノン嚢内注射	13
ボトックス	11

#### 水晶体再建術術中トラブルについて

2016年1月から11月までのトラブルを挙げると次のようになる。

破囊：10眼 (0.5%)

毛様小体脆弱または亜脱臼

CTRで対応：12眼 (0.6%)

CTR + IOLの変更：21例 (1.0%)

ECCEにconvert：1眼

ICCEにconvert：1眼 (IOLは2次的に挿入)

IOL関連

IOL破損：2眼

IOLがカートリッジから出ない：1眼

IOL裏返し：1眼

破囊は0.5%と、以前に比して極めて少なくなった。これは術者や介助者、周辺スタッフの技量が向上したのみでなく、フェイコマシン、顕微鏡、周辺機器が極めて進化し、その最高品質のものを当院がそろえることができたためだろう。それでもなお解決しきれないものは毛様小体脆弱症例の対策だろうと考えられる。

## 学会・勉強会

1月 29日～31日	日本眼科手術学会学術総会（福岡） 安藤 浩 江口 亮
2月 12日	高度管理医療機器販売管理者継続研修 安藤 浩
2月 18日～20日	日本角膜学会総会・日本角膜移植学会（長野） 石川暢子
4月 7日～10日	日本眼科学会総会（仙台） 安藤 浩 安藤展代 江口 亮
4月 13日	第1回地域保健・介護保険対策委員会 石川暢子
4月 15日・22日	日本アルコン臨床調査特別外来
5月 20日	βの会 稲村眼科クリニック 安藤展代
5月 24日	東海大学眼科病診連携会世話人会（海老名） 安藤 浩
6月 3日	Kanagawa Retina Forum（横浜） 安藤展代
6月 24日～26日	日本白内障屈折矯正手術学会総会（京都） 安藤 浩 安藤展代 江口 亮
7月 1日～3日	フォーサム 2016（東京） 安藤展代 石川暢子
7月 12日	七沢リハビリテーション病院眼科、ライトホーム見学 安藤展代 笹原諒平
7月 21日	東海大学眼科病診連携会 安藤 浩
8月 11日～13日	CAOS の会 江口 亮 「シンガポールナショナルアイセンター」
8月 26日～28日	Leica Microsystems HOYA Surgical Optics 工場見学 日本ロービジョン学会学術総会（新潟）
9月 1日	高度管理医療機器販売管理者講習 安藤 展代
9月 7日	遮光レンズ処方勉強会 東海光学㈱ 菊地様 笹原諒平 成瀬弘紀 山口優希
9月 17日～19日	日本緑内障学会（横浜） 安藤 浩 江口 亮 安藤展代 石川暢子
10月 4日	ロービジョン説明会 タイムズコーポレーション 前原様 石井様 井上拓己 笹原諒平 成瀬弘紀 山口優希
10月 14日～19日	AAO 学会（シカゴ） 安藤展代
10月 21日	職員勉強会 千寿製薬㈱ 町田様
10月 22日	神奈川ロービジョンネットワーク研修会（横浜） 笹原諒平 成瀬弘紀 山口優希
11月 3日～6日	日本臨床眼科学会（京都） 安藤 浩 江口 亮
11月 9日	第七回湘西眼科アカデミー 石川暢子
11月 18日	職員勉強会 日本アルコン㈱ 鈴木様 ノバルティスファーマ㈱ 小池様
11月 20日	ビジョンケアセミナー 2016 石川暢子
12月 2日～4日	日本網膜硝子体学会総会（東京） 安藤 浩 安藤展代 江口 亮 石川暢子 戸野塚敏恵
12月 9日	職員勉強会 大塚製薬 藤澤様

2016年皆勤賞 無遅刻・無欠勤・無早退の方々(11月まで)です。

甲斐 智美 榎本 和美 小寺 弥生 加藤 明子 鈴木 智子 野崎 友希  
高橋 京子 宮下千加子 山川久美子 斎藤 明奈 新村 瑞希 関野 芙美  
鈴木亜也子 丹野 美幸 熊本 靖代 笹原 諒平 生水 里美 露木 ちか

## 入職者 がんばって下さい。

工藤 奈津美さん（看護師）	平成 28 年 1 月 12 日入職
山口 優希さん（視能訓練士）	平成 28 年 4 月 1 日入職
安藤 美沙代さん（事務）	平成 28 年 10 月 3 日入職
松浦 清二さん（ドライバー）	平成 28 年 10 月 3 日入職
米山 俊彦さん（ドライバー）	平成 28 年 10 月 3 日入職

## 退職された方 お疲れ様でした。

鈴木 萌さん（検査）	平成 28 年 8 月 31 日退職
鈴木 康一さん（ドライバー）	平成 28 年 8 月 31 日退職

## 結婚おめでとう。

土橋（原） 祥子さん	平成 28 年 5 月 3 日
小見山（関） 絵理子さん	平成 28 年 7 月 23 日
田代（山村） 明子さん	平成 28 年 11 月 3 日
渡辺（荻野） 孔美さん	平成 28 年 11 月 16 日

## スタッフ

常勤 医 : 安藤 浩	安藤 展代	江口 亮	石川 暢子	戸野塙敏恵
看護師 : 井上 拓己	金田 浩子	甲斐 智美	榎本 和美	松山さやか
藤田 孝枝	香川奈美子	久野 妙子	鹿島 瞳	加藤 知佳
丹野 美幸	露木 ちか	工藤奈津美		
臨床検査技師 : 木村 智嘉	志村 舞	須貝 剛	十文字 恵	新村 瑞希
林 由香里	成瀬 弘紀			
視能訓練士 : 笹原 涼平	山口 優希			
検查看護補助 : 鈴木 智子	高橋 京子	藤本 景子	山川久美子	岡田真由子
坪井明日香	玉木 由佳	鈴木亜也子		
事務 : 加藤 晃仁	小寺 弥生	加藤 明子	野地 真弓	野崎 友希
飯山百合子	近藤 里奈	波多野麻里亜	山口いづみ	宮下千加子
小見山絵理子	鈴木 雅美	矢口 弥生	田代 明子	関 麻子
齊藤 明奈	中村久美子	面高美和子	渡辺 孔美	町田 裕子
土橋 祥子	木村芽久未	廣井みさと	関野 芙美	高田 里沙
熊本 靖代	生水 里美			
ドライバー : 田辺 勝美	中込 信治	岩本 栄一	松浦 清二	米山 俊彦
研修 中 : 安藤美沙代				



## 編集後記

安藤眼科医院の1年がギュッと詰まった、Annual Report 2016が完成しました。

今回は年末に完成版を発行すべく作業にあたってきました。編集作業はちょうど編集顧問（名誉院長）のAAO学会参加と重なりました。“顧問不在ではなかなか作業が進まないな～”なんて考えていたら、メールの受信ボックスには次々と顧問の名前…私の心配をよそに海外より遠隔操作されスムーズに作業は進みました。

2016年は松田本院移転があり、本誌の内容も例年よりボリュームのあるものになりました。原稿依頼のあった職員の方たちは、いつもよりも早い締切に頭を悩ませたことと思います。また名誉院長の、無茶とも思えるフリに快く寄稿下さった、(株)創建加藤健様、本当にありがとうございました。

院長・名誉院長の下、成長し続ける安藤眼科医院、2017年何が起こるのか…次のAnnual Reportも楽しみにお待ちください!!

2016年12月17日

編集長 志村 舞

編集委員 町田 裕子

波多野 麻里亜